

設備工事情報シート	衛生	I-P-16-改 ₂	制定	2004年4月1日
			改訂	2015年3月1日
施工要領	ステンレス管(拡管式継手)		ベンカン編	

1. 目的・概要

住宅の給水および給湯配管に使用する一般配管用ステンレス鋼管用継手は、メーカーごとに使用部材および施工要領が異なっている。使用する継手およびその施工要領の認識不足による不具合を未然に防止するためには、施工前に採用する継手メーカーの配管接続方法を確認する必要がある。

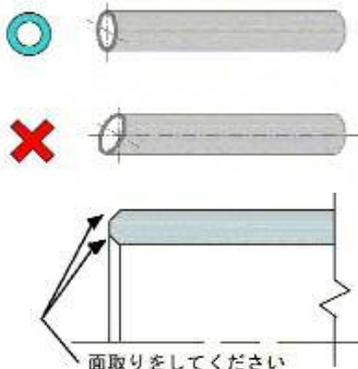
以下に、(株)ベンカンの拡管式ステンレス管継手の施工要領および施工のポイントを示す。

2. 施工指導

配管施工前は必ずメーカー主催の施工説明会を施工者は受講し、受講終了証を受け取り、配管施工時には正式のマニュアルを参照して作業を行うこと。

3. 施工手順およびポイント

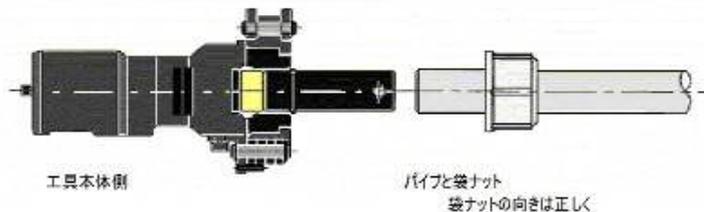
(1) パイプの切断と面取り



バンドソーやメタルソーを用いてステンレス鋼管の管軸に対して直角に切断する。
 ※ロータリーカッターは、必ずウチダレを除去する。
 ※パイプの切断面が斜め切りや段切りになっていないかを確認する。

(2) パイプ、継手の接続

①



パイプの端部は0.3ミリ程度の面取りをする。使用前に工具の取扱説明書を確認すること。拡管するために、専用工具を使用すること。拡管サイズに合わせて、治具をセットする。拡管する前に「袋ナット」を正しい方向にセットする。

※工具に袋ナットをねじ込む必要はない。

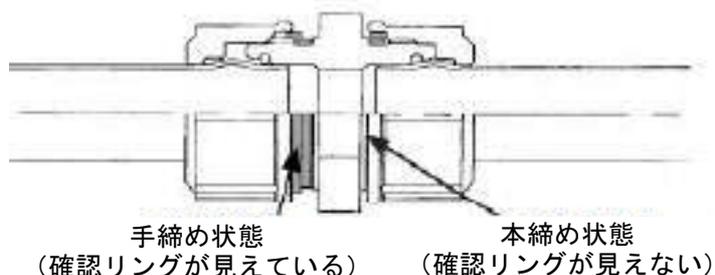
②



拡管部にパイプが突き当たるまで挿入し、「確認窓1」から端部位置を確認する。スイッチの「入」ボタンを押し続け、拡管を行い、ポンプのモーター作動音が「ゲージ」という音に変化したら拡管は完了。油圧は自動で解除される。

※ベンカンが認定していない類似拡管工具でパイプを拡管すると、不具合の発生につながるため、使用しないこと。

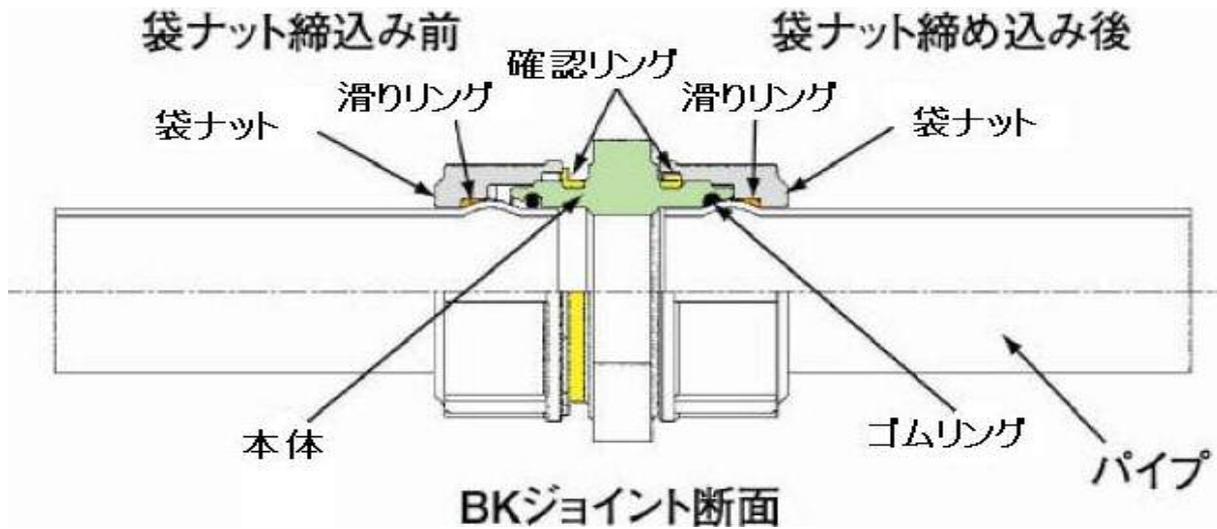
③



拡管部に「拡管ゲージ」を当てる。拡管ゲージが拡管の山が止まれば良好。
 ※拡管不足の場合、拡管部が確認ゲージを通過するので、その際は施工マニュアルに従って処置すること。
 「袋ナット」を手締めし、パイプレンチで「袋ナット」を本締めする。
 「確認リング」が見えにくくなると完了。

資 料

4. 一般配管用ステンレス鋼鋼管継手部材構造図 (抜粋)



5. 水圧検査 合否判定基準 (SHASE 010-2000、206-2000 抜粋)

系統名		試験水圧	
		試験圧力	最小保持時間
冷却水・冷温水		最高使用圧力の1.5倍とする。ただし、最小0.75MPaとする。	30分
給水・給湯	直結	最小1.75MPaとする。ただし、水道事業者に規定のある場合は、それに従うものとする。	60分
	高置水槽以下	実際に受ける圧力の最小2倍とする。ただし、最小0.75MPaとする。	60分
	揚水管	ポンプ揚程の最小2倍とする。ただし、最小0.75MPaとする。	60分

※袋ナットの本締め忘れなどを発見するために規定の試験を実施のこと。

6. 問い合わせ先

(株)ベンカン

メカニカルジョイント事業部

営業所	電話番号	担当者
東京オフィス	TEL: 03-3777-1531	塚本 高弘
札幌オフィス	TEL: 011-232-1921	宮本 太
仙台オフィス	TEL: 022-772-8471	庄子 錦一郎
名古屋オフィス	TEL: 052-571-3270	佐藤 康之
大阪オフィス	TEL: 06-6482-1856	掛川原 豊
広島オフィス	TEL: 082-261-5205	鈴木 隆弘
福岡オフィス	TEL: 092-724-0720	関口 敏雄

ホームページアドレス <http://www.benkan.com>